

◇ナーサリーこぼれ話◇

「食べるということ」

「今日もほとんど食べてない」。調理室を担当するHさんの、数日来の嘆きだ。1、2歳児にじくみの子どもたちのお昼どき、お代わりはおろか、白飯がほとんど食べ進まずに茶碗が下げられてくるが続いていた。9月後半になってなお残暑が厳しいことも影響しているのかもしれないが、それにしても、食べが悪い。

食べるということは、栄養素を体内に送り込むことだけを意味するのではない。気力が充実してたっぷり遊んでいれば、おなかすいて食欲もわく。食べることで、次の時も楽しみに生きようとする活力を得る。生き生きと生きようとする前向きさの、何よりの表れでもあるのだ。Hさんは前年度まで担任として保育を担い、今は調理室を担当している。ほぼついだま減らずに戻ってくる白飯に、子どもたちの生活が生き生きしたものになりきっていないのではないかと、Hさんの心配は募る。

折しもその週の食材の配達日に、新米が届く。食する、ということ、を、単に提供する人が提供し食べる人が食べるというルーティンにするのではなく、そのプロセスを共に味わい楽しむような活動にしよう。Hさんは、子どもたちが食事をとる保育室に炊飯器を持って行き、炊きたての新米を、子どもたちの前でよそった。

子どもたちの食べの良さといったらなかった。米そのものと共に、炊きたてホカホカのおいしい匂いの中に漂う愛も、子どもたちはその身に取り入れたのだと思う。Hさんはすぐに、「ちゅーぼーだより」を作った。こと保育において、食べることを侮ってはいけぬ。あらためてそう思う。(主任保育士K)

ちゅーぼー(園報だより) 1/100

<ナーサリーの美味増汁に入る頁を願います>

たまねぎ・にんじん・だいこん・じゃがいも・さつまいも・キャベツ・ほうれん草・スのきだけ かつお・ごぼう・かぼちゃ・さといも・とうふ・あぶらあげ・わかめ

季節ごとの野菜を選んで、毎日3.4高ずつ具材にしています。さといもに切ってみたり、いちよう切りや細切りにしてみたり一切り方によっても、食の楽しみが増えるようですよ。



おやつメニューにも季節の野菜や食物が出ます。『おやつだより』をご覧になって、まずはお家で食べてみてください。



新米はおいしい!

10月2日、生協から新米がときました。

炊きたて新米—炊飯器のぞき込みだり、「いいにおい!」を確かめたりして、おいしくいただきました。




 郵便

POST

◇私の「カルチャー・いんふお」◇

映画『最初に父が殺された』（アンジェリーナ・ジョリー監督 Netflix 2017年）を見ました。1975年、主人公は生まれ育ったカンボジアの首都プノンペンを家族と共に追われ、地方に向かいます。カンボジア人市民を追い立てたのはクメール・ルージュと呼ばれる当時の革新的共産革命軍でした。ボル・ボトをリーダーとする赤い組織オンカは、新しい国を建設すると称し、邪魔な者たちを次々と粛清していきます。物語は故郷を後にして生き残っていく過程を当時5歳の女の子ルオンの視点で描きます。8人だった家族も、年上の兄弟は離れてキャンプで共同生活を送り、父母と年下の子どもはそれまでの暮らしとはかけ離れて貧しい小屋で飢えに耐えながら暮らし始めます。革命政府は国民がギリギリで生きていける食料しか与えません。そして一家は元軍人の父親を最初に失います。革命軍の兵士に追い立てられ、帰って来ない父親が死んだであろうことを感じます。母親は子どもたちに命を承らえてほしいとバラバラに逃げるよう懇願します。ルオンはのちに、残った母親も幼い妹と共に姿を消した、つまり命を失ったことを知ります。孤児のふりをし、子どもたちばかりを集めた労働キャンプで幼い兵士としての訓練をこなしながら生き残ったルオンは1980年にアメリカにたどり着きます。一緒に移住できた兄はカンボジアに残った兄弟姉妹を養うために働きます。ソビエト、東欧諸国で共産主義政府のもとたくさんの人々が粛清され、不自由な生活を送りましたが、日本と同じアジアにもこのような歴史がありました。原作『最初に父が殺された あるカンボジア少女の記憶』（ルオン・ウン著 無名舎 2000年）も出版されています。（AK）

◇研究論文を募集します◇

ピアレビュー(査読)の上、掲載します。

- 【テーマ】 子ども、保育、幼児教育に関するもの。
- 【文字数等】 400字詰め原稿用紙 35枚程度（写真・図表、文献、注を含む）。本文はワードで作成。
- 【締め切り】 随時募集します。投稿予定の方は本誌編集委員会まで。

Mail:youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学・公開セッション
「子育て支援フィールドワーク」開催

お茶の水女子大学で、保育現職者・社会人対象の講座「保育・子育て支援ラーニングプログラム」が開設されています。その一環で、2020年度後期に「子育て支援フィールドワーク」という公開セッションを開く予定です（担当：宮里暁美、浜口順子）。地域の子育て支援施設を視察する予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況により、具体的な内容は未定で、大幅な変更もあり得ます。リモート形式となる可能性もありますが、簡単なお申し込みでご参加いただけますので、10月以降、お茶大のホームページをご確認ください。

下記のメールでのお問い合わせも受け付けます。

資料代（参加費）として、3000円前後を予定しております。

【お問い合わせ先】 お茶大 ECCELL 社会人プログラム 事務局

【Eメール】 nyuoyji-info@cc.ocha.ac.jp


 Brush up Program
for professional